

# ほやほや 速報

## 2日目分科会を終えて～参加者の声～

・組織開発という難しく考えていましたが、小林先生の御助言をお聞きし、少し発想を変えるだけで自分の業務に落とし込めて、役に立てることができると思いました。「ワクワク」しました! (本部研究分科会：京都)

・授業を見に行くのは是非やってみたい。職員室のコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりなど、参考になる話がいっぱいあった。久しぶりの参集で熱気を感じた。(本部研究分科会：埼玉)

・皆の「熱」を感じることが出来る。隣の人と語るなかにも学びがある。(第1分科会：滋賀)

・経験年数が違うと取り組んでいることに差があると思うが、何を取り組むべきか正解はないと思うので、テーマのとおりできることから取り組んでいこうと思います。(第2分科会：大阪)

・経験が浅いため悩みは尽きないのですが、どんどん相談して悩みを共有していいんだと思えました。(第3分科会)

・集金事務の理解が深まりました。他県の業務改善の取組について知ることができました。(第4分科会：兵庫)

・今回初めて大会に出席して、県が違っても同じような悩みを持っていたりしてすごく共感を持てたし、色々な話し合いができてよかったです。もちろん制度等は少しずつ違うけれど、色々な地域の現状、解決策、実践も聞けて本当に勉強になりました。見習って実践していきたいと思いました。(第5分科会：和歌山)

・全国の皆さんが、経験や地域の様子が違っても同じように問題意識を持って頑張っていこうとしておられることがとても嬉しく、学校に戻って生かすエネルギーになりました。(第5分科会：富山)

・経験年数がグループ内で一番浅かったですが、他県のベテランの方の意見も直接聞け、質問もでき顔見知りになってよかったです。自分で「事務の仕事」を決めてしまっていたけれど、もっといろんなことができるということを知ることができました。(第6分科会：石川)

・グループワークで初めて司会を経験しました。オンラインで意見を導き出すのは難しかったですが、とても勉強になりました。学校から離れられない人も参加できたので良かったです。(オンライン)

・助言者の小林先生のお話が本当に分かりやすく、一つ一つ聞いていると自分がやっている些細なこともリーダーシップと言えるのだと思いました。(本部研究分科会：岡山)

・学校組織・共同実施組織において、事務職員として、リーダーとして、心理的安全性について考える機会となりました。メンバーの関係性をより大切に、より楽しい雰囲気でもっと進んでいきたいと学べました。(第1分科会：三重)

・グループワークで各地域の方と意見交換ができモチベーションが上がりました。(第1分科会：愛知)

・グループのメンバーを決められていたので緊張しましたが、いろいろな県のいろいろな経験年数の方の意見が聞けて勉強になりました。(第2分科会：福井)

・すべてにおいて、人と人との関係性が大切なのだと改めて思いました!(第3分科会)

・集金事務の効率化のことなど、他県の業務改善の取組を知ることができたので、今後に生かしたいと思いました。(第4分科会：福井)

・自校だけではできないことも共同実施のように協力して声をあげることで教育委員会にも声が届くことを実感できました。事前課題もあってグループ討議は和気あいあいと進めることができるとても有意義でした。煮詰まっていたなか、閃きと、また明日から頑張ろうという活力をもらいました。(第5分科会：石川)

・全国大会に初めて参加しました。いろんな都道府県の人とグループワークができて、いろんな話が聞けて新鮮でした。(第6分科会：静岡)

・全国大会初めて参加しました。全国にこんなにも多くの事務職員の方々が、子どもたちのために高い志を持って仕事をしていることを知りました。とてもよい刺激を受け、改めて2学期からも頑張ろうという気持ちになりました。(オンライン)

・当事者意識を持って、事務職員も積極的に学校運営にかかわるべきだという提案を聞いて、自分がやってきたことは間違っていなかったと感じ、非常にうれしかったです。(オンライン)



# 全体研究会Ⅱ（シンポジウム）

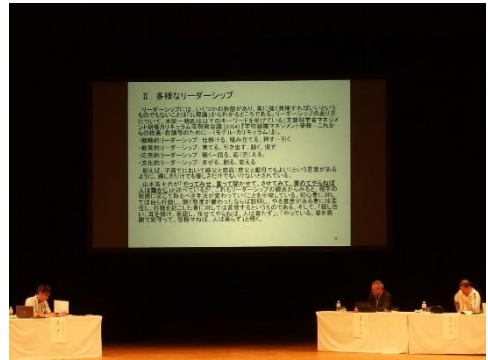
「地域とともにある学校をつくるリーダーシップと組織開発」をテーマに、3名のシンポジストにより意見が交わされました。

## ○論点1 リーダーシップと組織開発

石田衣絵氏：考え方や価値観の違う様々な人が学校にかかわるチームとして、人と人との関係性に働きかけ、その関係性を維持しながら、目標達成に向けた行動力を増やすリーダーシップが、組織にとって重要である。

荒瀬克己氏：よりよい人間関係を維持しながら、目標達成に向けた行動力を引き出すリーダーシップが求められる。そのためには、視座（物事を見る立場）を動かして考えていくことが大切である。

雲尾周氏：状況に応じたリーダーシップを発揮することが求められる。そのためには、組織の最適解を常に探し続けなければならない。それぞれのリーダーシップを発揮しているのはだれかを考え、様々な役割のリーダーシップを積極的に分散していくことが大切である。



## ○論点2 事務職員の人材育成

石田衣絵氏：初任者研修は実施の割合が高いが、2年目以降の研修は大きく減少している。事務をつかさどるための研修についても不十分と考えられるため、本部研究では人材育成指標の必要性についても提案した。



雲尾周氏：組織の構成員として求められていることを理解し、自分の能力を把握することで、組織に貢献することができる。自分が何を学んできたかを振り返り、別個に存在している「まなび」を統合（生涯学習）してほしい。

荒瀬克己氏：お互いに気づき、学び合うということが大事になる。そのために教職員の心理的安全性を確保することが大切である。コミュニケーションを取ることで子ども・学校の現状を認知し、各々が上位の目標に向かい一致していく。その組織のなかで事務職員の立場が非常に重要になってくる。

## ○まとめ

雲尾周氏：事務職員は何かの特化したスペシャリストというより、オールラウンド・プレイヤーであると言えるが、スペシャリストも目指してほしい。オールラウンド・プレイヤーとスペシャリストの相克を乗り越えてほしい。

荒瀬克己氏：思ったことは敬意を持って言うことで、学習環境をより良いものにできる。学校改革は皆ですもの。それぞれが意見を、疑問を含めて出していくことが大切である。

最後に、コーディネーターである前田雄仁 全事研副会長の「学校現場で期待にどう応えていくかを考え、子どもの豊かな育ちを支援するために事務をつかさどり、学校経営に参画していきたいと思います。」との言葉でシンポジウムを締めくくりました。





## 実行委員 感謝の言葉

「笑顔」と「福」の贈り物に感謝をこめて未来へ



はじめての参集及びオンラインによるハイブリッド開催となりました第55回全国公立小中学校事務研究大会は、全国から多くの方に御参加いただき盛会に開催することができました。4年ぶりとなる対面での研究大会は、熱い学び合いの場となりました。そして、コロナ禍で決断したハイブリッド開催でしたが、この新たな挑戦により多くの方に研修の機会を広げることができたと思っています。

本大会は「地域とともにある学校をつくるリーダーシップと組織開発」を大会テーマに「子どもの豊かな育ちを支援する」学校事務について研究を深めました。新たな発見、発掘の機会となりましたでしょうか。この大会での研究提案や実践の共有が、参加者の次への実践の種となり、そして今後の子どもたちの「福（しあわせ）」につながっていくと確信しております。

平成30年に実行委員会を立ち上げて以降、少ない人数での運営やコロナ禍による制限など、本当に開催できるのだろうかと不安もありましたが、皆で考え知恵をしぼり協力して準備を進めて参りました。各部局において前向きに精一杯取り組み、この大会によって私たち実行委員も成長させていただいたと感じています。また、たくさんの方からの笑顔と励ましの言葉により、元気をいただきました。実行委員会一同、心より御礼申し上げます。

最後になりますが、御参加の皆様はもちろんのこと、福井大会にかかわってくださった多くの方の御協力があったからこそ成し得た大会でした。一緒に作り上げてくださった皆様、本当にありがとうございました。また、分科会提案について、全事研本部をはじめ、東海プロジェクト、奈良支部並びに北越地区各支部の皆様には、大変お世話になりました。福井大会をともに盛り上げていただきましたこと、心より御礼申し上げます。

福井の地で湧き上がったこの大会の「笑顔」と「福」に感謝し、次の大会へ引き継ぎます。来年度の研究大会は本部主管にて開催されます。第56回全国大会でまたお会いしましょう。

福井県公立小中学校事務職員研究会 会長

第55回全国公立小中学校事務研究大会副実行委員長 梅田陽子

